

お知らせ

INFORMATION

No.2016-25

2016年8月

病体生理研究所

新規受託開始のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当研究所をご利用いただきまして誠に有り難うございます。

この度、下記検査項目におきまして、新たに受託を開始させて頂くことになりましたのでご案内いたします。

何卒、ご利用頂けますようご案内申し上げます。

敬具

記

【新規受託開始について】

- ◆ 抗 MuSK 抗体（抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体）〔16765〕
※項目情報裏面参照

《受託開始日》：2016年9月12日（月）より

【新規項目情報】

項目名称	抗 MuSK 抗体 (抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体)
コード	16765
検体材料	血清 0.3mL
保 存	絶凍
採取容器	No.1 → No.7
検査方法	RIA 法
基準値・単位	0.02 未満 nmol/L
所要日数	4~11 日
実施料	1000 点 (D014 37) *1
検査判断料	144 点 (免疫学的検査)
備 考	*1 「抗アセチルコリンアセチルコリンレセプター抗体」と「抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体」を併せて測定した場合には、主たるもののみ算定できる。「抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体」は重症筋無力症の診断（治療効果判定をのぞく）を目的として測定した場合に算定できる。

重症筋無力症（MG）は手足を始めとした全身の筋力の低下や眼瞼の下垂、複視などを主訴とする自己免疫疾患です。筋肉を使っているとだんだん筋力が低下するのが特徴で、日本では2006年の全国調査によると、有病率は人口10万人あたり11.8人、患者数は約1万5千人とされています。

MGは神経筋接合部の筋肉側に存在するアセチルコリンレセプターが自己抗体によって障がいを受けることにより発症し、多くの症例（80~85%）でアセチルコリンレセプター（AChR）抗体の陽性が認められますが、陰性の患者も存在するため、MGはAChR陽性（SPMG）と陰性（SNMG）の二つに分類されています。

2001年にドイツのHochらが筋特異的受容体型チロシンキナーゼ（MuSK）に対する自己抗体について発表しました。抗MuSK抗体はSNMG患者の約40~70%（MG全体では数%）に陽性が認められるとされています。また、MGの重症度を表すMGFA分類では重症度が増すほど抗MuSK抗体の陽性率が高くなるという報告があり、抗MuSK抗体陽性例では嚥下障がいや呼吸困難などの重症症例が多いといわれています。

SPMGとSNMGでは治療法も異なるため、本検査を行うことは治療方針を立てるために重要とされています。

以上